

まちづくり構想（地域案）

令和○（20**）年○月
富秋中学校区等まちづくり検討会議

は じ め に

まちづくり構想とは

この構想は、富秋中学校区（隣接校区の一部を含む）において、公共施設の再編をきっかけに、新たなまちづくりを進めていくための“道しるべ”となるものです。

平成30年2月から令和●年●月の間、地域の代表者が集まる「**富秋中学校区等まちづくり検討会議**」と、住民、学校関係者、商店主、福祉関係者など誰でも参加できる**4つの専門部会**（子育て・教育部会、住環境コミュニティ部会、福祉部会、地域活性化部会）等により延べ30回を超える議論を行い、その内容を本構想にとりまとめました。

まちづくり構想の役割

この構想を通じて、まちを変えていくメッセージを発信するとともに、まちの将来像を共有します。そして、地域・行政・学校・事業者などの関係者が連携・協働・役割分担しながら、この構想の実現に向けて取り組んでいきます。

地域・行政・学校・事業者等が丸で「**まちを変えていく**」というメッセージを発信する

「**こんな魅力的なまちになっていく**」というイメージを共有する

実現するためのシナリオを明示する（誰が、いつ、何をするか）

目 次

1	富秋中学校区等の 概要	1
2	まちの 現状	3
3	めざす まちの未来	7
4	まちを動かす・変えていく シカケ	11
5	「まちの核」をつくり・つなげる	17
	6つの【コアプロジェクト】	
6	実現と発展に向けた持続可能な 体制	27

1

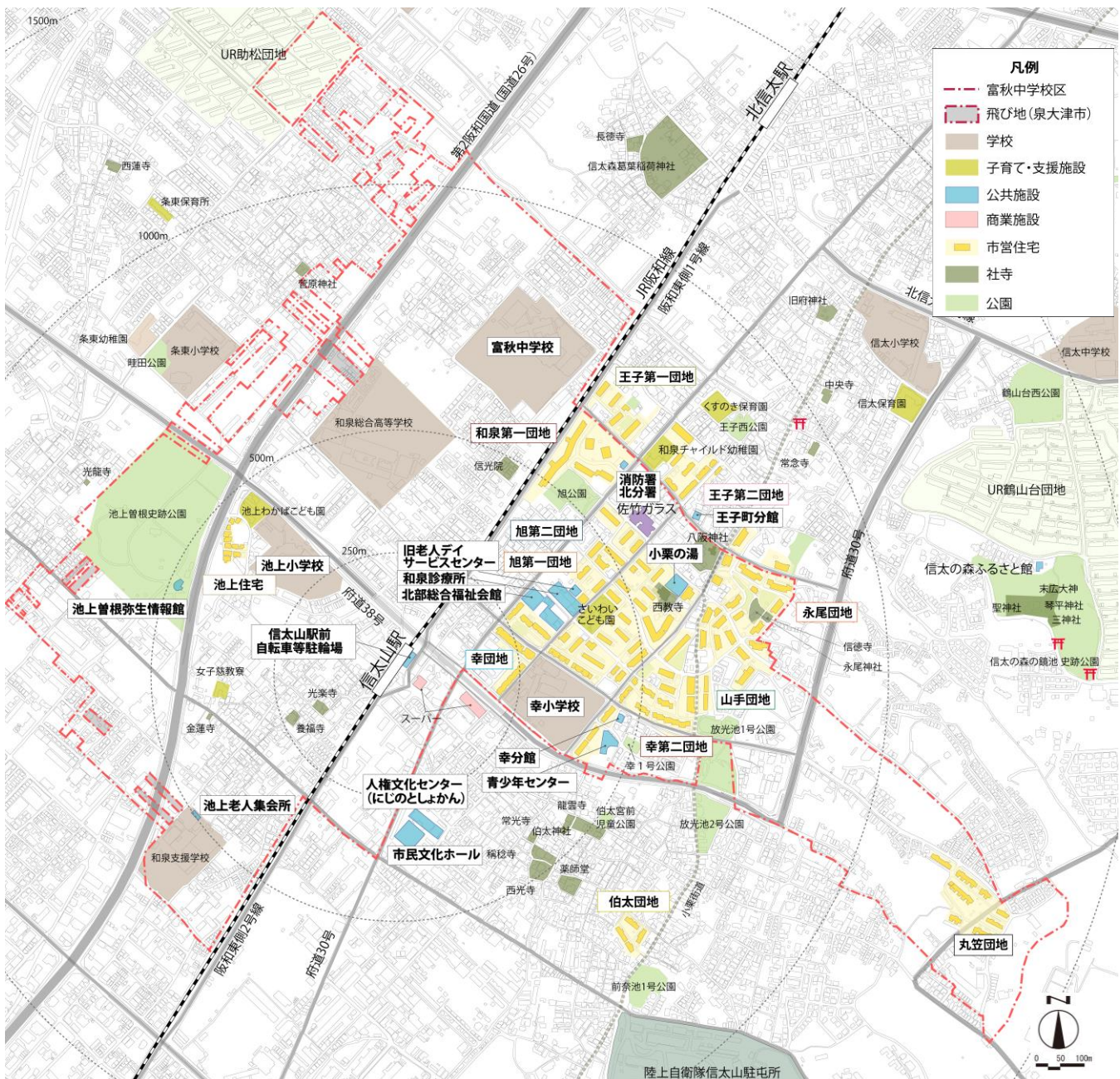
富秋中学校区等の概要

【地区の概要】

本構想の対象となる富秋中学校区等は、池上小学校区と幸小学校区からなる（隣接する伯太小学校区、信太小学校区の一部を含む）地区です。

そのうち富秋中学校区は、ＪＲ阪和線 信太山駅を起点として半径 1.5km に校区が広がる約 140ha の地区です。現在、約 1 万 1 千人の方が暮らしています。

■富秋中学校区等 位置図



小栗街道や池上曽根史跡遺跡、社寺などの歴史資産が残る一方、校区の大半は戸建住宅や市営住宅などが並ぶ住宅地です。駅前や幹線道路、市営住宅周辺には商業施設等も並んでいます。

また、市営住宅や学校をはじめとして、和泉診療所や北部総合福祉会館、人権文化センター、青少年センターなどの公共施設が多く集まっている校区です。



信太山駅前



池上曽根史跡公園（イベント時）



登録有形文化財 西教寺



市営住宅団地



市営住宅の1階に連なる商店



和泉診療所



北部総合福祉会館



人権文化センター（にじのとしょかん）



青少年センター（運動場）



池上小学校



幸小学校



富秋中学校

2 まちの現状

【まちの資源】

校区社協、民生委員・児童委員などによる多様な活発な支援活動
⇒昔からコミュニティが強く、今も大切にするまち！



池上校区の福祉活動（いきいきカフェサロン）

子どもたちの教育環境を真剣に考える地域文化
⇒多くの人たちが子どもたちを思い、関わりを持っている！



ブックフェスティバル



団地1階を使った交流拠点（すこやかリビング）



団地店舗を使って行われている宿題教室

多様な人々を受け入れる、包容力のある地域特性
⇒子どもの見守り、高齢者・障がい者を支援する活動なども活発！

診療所や福祉会館、人権文化センター、青少年センターなどの医療・福祉施設・市民施設・教育施設が充実



ふれあいモーニング（シルバースペース）

子どもたちの異年齢交流が行われている**プレーパーク**の取り組み
⇒学校での取り組みだけでなく地域の
子育て活動も活発！



青少年センターでの異年齢交流

100 人を超える子どもたちが参加する**子ども食堂**（西教寺）
⇒富秋中学校区外からも児童・生徒
が多数集まっている！



西教寺の子ども食堂「てらこやハッピー」

小栗判官に由来する小栗街道、池上
曽根史跡遺跡などの**歴史・伝承文化**
⇒小栗判官伝説は歌舞伎や浄瑠璃の
演目にも登場！



池上曽根史跡遺跡（いずみの高殿）

地域に愛される**伝統文化行事**（信太
山盆踊り・だんじり）や**地場産業**（ガ
ラス細工・人造真珠）
⇒人造真珠は全国有数のシェア！



地域外からも大勢訪れる信太山盆踊り（8月）



登録有形文化財 佐竹ガラス

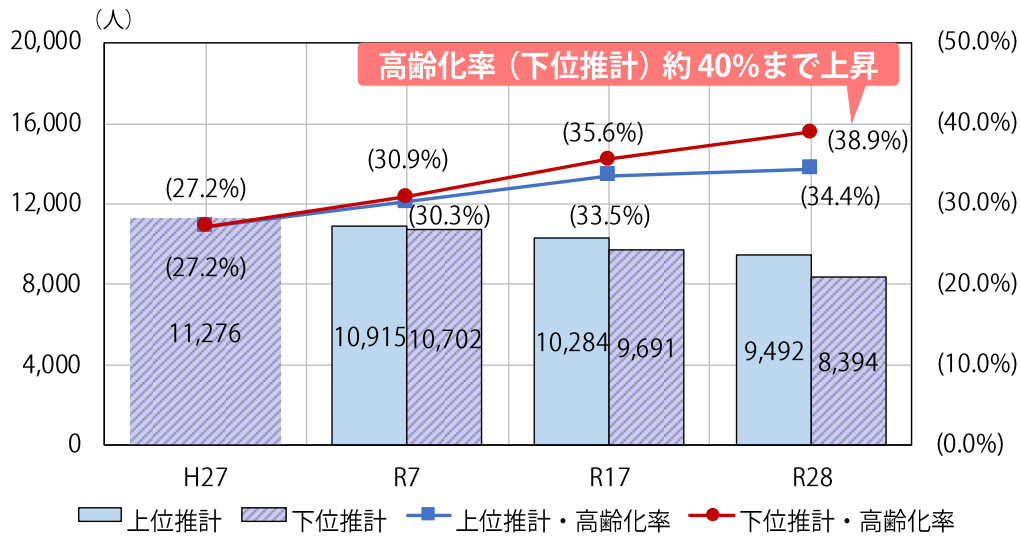


世代を超えて伝統文化を受け継ぐ
だんじり祭（10月）

都市部から程よい距離。駅近で便利

【まちの課題】

富秋中学校区では人口減少傾向が続き、今後30年で高齢化率は約40%まで上昇予想



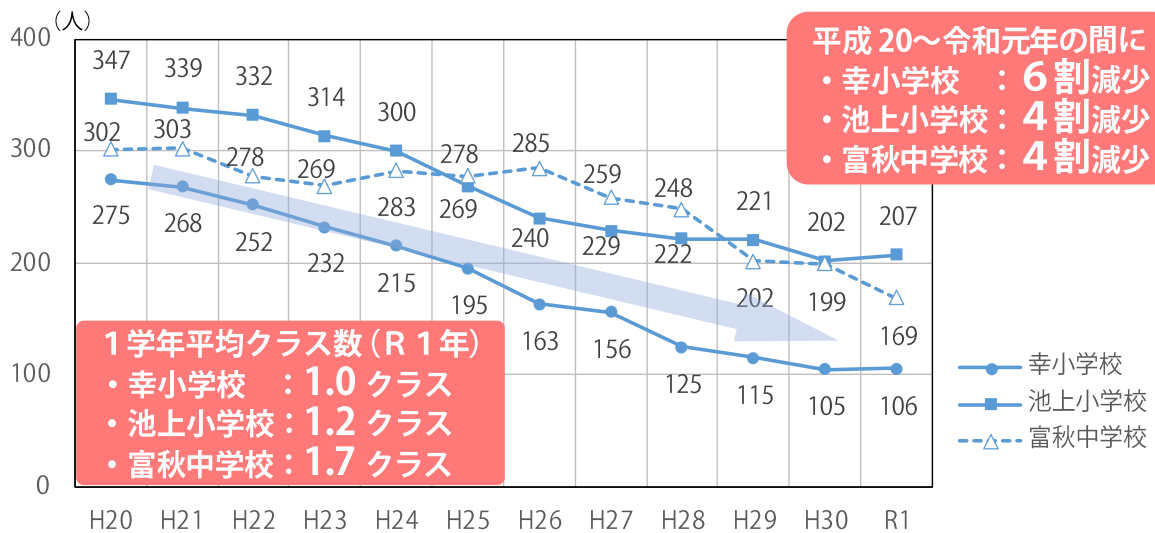
※高齡化率：高齢者（65歳以上）の割合

※各推計の設定条件について

【上位推計】国の『まち・ひと・しごと創生長期ビジョン』において示された合計特殊出生率が達成すると仮定
(平成32年：1.60、平成42年：1.80、平成52年：2.07)

【下位推計】合計特殊出生率1.37（平成25年と同じ）が継続すると仮定

児童・生徒数は、この10年で各校4～6割減。現状のままでは今後も増加は見込めない
⇒このまちの次世代をになう子ども・若者が減少傾向



市営住宅や学校をはじめとした公共施設の老朽化が顕著。耐震性に課題のある住宅・施設もある
空き家、空き店舗、団地集会所など公共施設が有効活用されていない
⇒貸室の稼働率（利用率）は約15%。なかにはほとんど利用されていないスペースも

高齢化・人口減により世代間交流が減少。高齢者の孤立化もある
⇒地域社会に参加するきっかけが必要

地域で育った若者などが地域に戻りたくても、住むことができる住宅がない
⇒新たに住宅を建てる土地が少ない
⇒コミュニティバランスが悪化

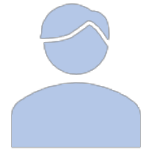
\ ワークショップなどでこんな意見も挙げられました /

子ども・親が安心して過ごせる居場所が少ない
未就学児を支援する施設は少ない
親同士が悩みを話せたり、集まれる場が少ない



子どもが思いきり遊べる場所が少ない
中学生などの居場所が少ない

複雑な事情を持ち、家庭での教育が難しい方もいる
勉強の楽しさが伝えきれず嫌いになる子どもも多い



いつでも誰でもふらっと立ち寄れる場がない
公共施設は多いが、気軽にパッと使いにくい
活動したくても集会所などがない地区もある

地域活動は活発だが、横のつながりが乏しい
活動の情報が届いていない



地域で働ける場所がない
地場産業や店舗の後継者がいない

盆踊りやだんじりは活発だが出店は以前より減った
祭りの後継者が不足



買い物等で停められる駐車場が少ない

駅改札が西口になく不便
駅前から地区内を巡る移動手段が少ない



狭い道、夜暗い道など不安な場所がある
まちに緑が少ない

3 めざすまちの未来

<まちの目標像>

つどい・そだち・つながりを
大切にする人権尊重のまち とみあき

① 今の暮らしを大事にしつつ、“住みたい”と思われるまち

- 安心・安全に暮らし続けられるまち、
新たにこのまちに住む人を惹きつける魅力と活力が満ちたまちへ

② 住民一人ひとりが協力・参加し、地域・人を育てるまち

- 住民が自主性を持ってまちの魅力づくりを考え、行動・実践するまちへ

③ 子どもから大人まで、みんなが交流し、支えあえるまち

- 一人ひとりの信頼関係やつながりを大切にするまち、
「人権」を尊重し、多様な人々がともに支えあいながら暮らすまちへ

たとえば 10 年後はこんなまちに…

イメージ①

団地活用や建替などにより、子ども、
若者・子育て世帯、高齢者が**安心・安全・快適**に過ごせる住まい、居場所、
支えあいの仕組みができている



イメージ②

このまち独自の魅力的な教育活動をスタート。地域と学校が日常的に関わり、
地域・保護者・学校・行政等が一丸で
子育てと子育てを支援する環境に



<まちづくりの作法（基本ルール）>

この3つの作法は、これからみんなでまちづくりを具体的に進めていく上で最も大切にしてい**く「基本ルール」**です。

① 「住民目線」で

今住んでいる人、新たにこのまちに住む人の暮らしを第一に考えて、まちをつくっていく

② 「協働型」で

取組みは、地域（住民・団体）・行政・学校・事業者など、みんなで議論し実践する

③ 「段階的」に

目の前のできることからまず取組み、地域で挙げた成果や経験を継承しながら、徐々に大きくまちをつくりかえていく

イメージ③

教育・多世代交流拠点には、地域のあらゆる人が集まり、**相談や読書、遊び、福祉活動、会議、催しなど地域の様々な活動**が行われている



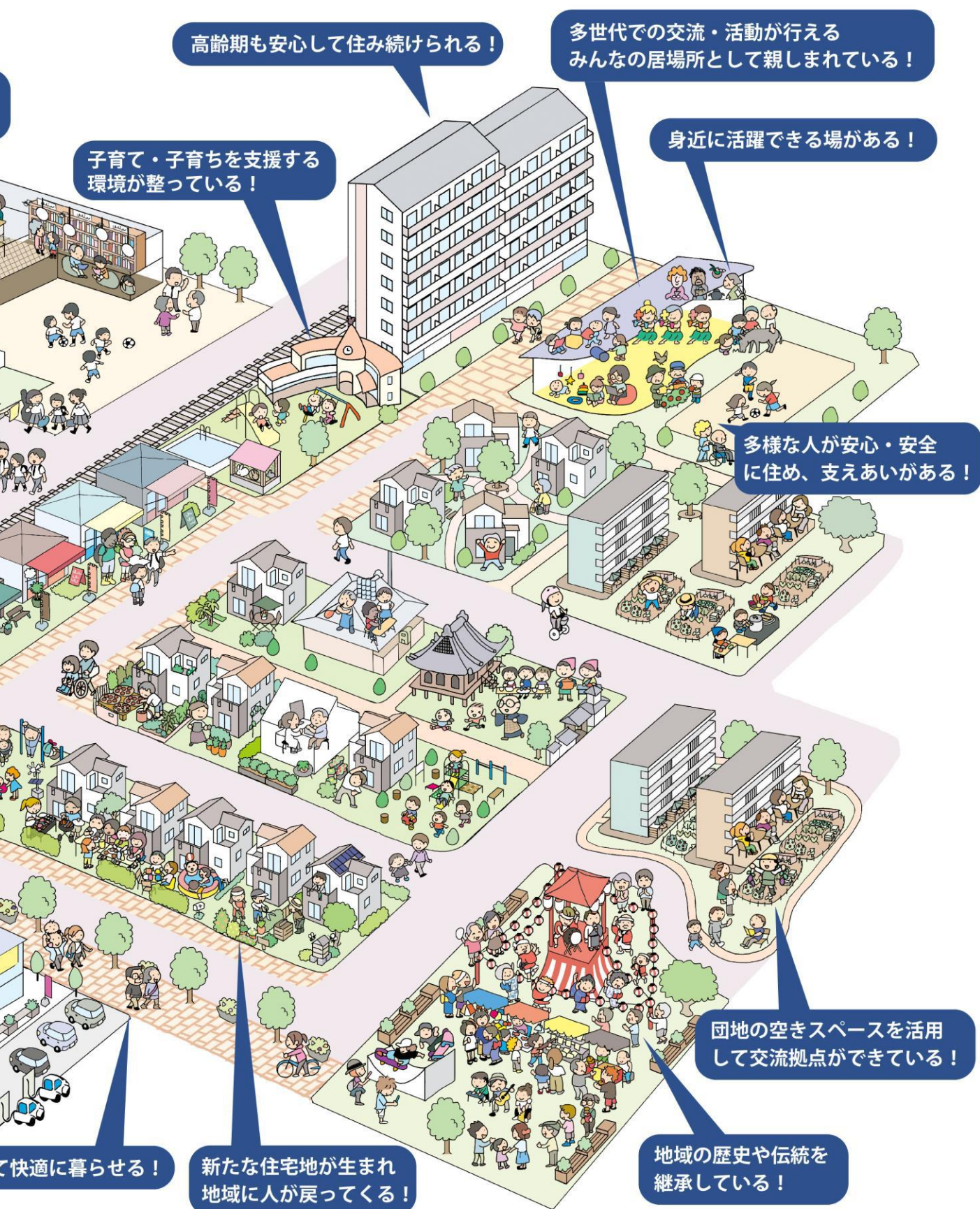
イメージ④

活躍したい人は、地域の施設の運営やまちづくりプロジェクトに関わることができ、**新たな挑戦ができる環境**に



そして 20 年後はこんなまちに…！





※これはイメージです

4 まちを動かす・変えていくシカケ

シカケ 1

公共施設再編を契機に「まちの核」をつくり、活性化につなげる

- 「公共施設の再編」とは、市営住宅や学校、その他の公共施設の改修や集約建替えを行うこと、また、集約化して生まれた跡地を活用することです。跡地は地域と行政が対話しながら、民間住宅地や福祉施設、商業施設、公園等を整備し活性化につなげます。
- 「まちの核」とは、「まちを支えるために必要な機能」が集まる拠点のことです。このまちがこれまで大切にしてきたところを受け継ぎながら、まちにあるさまざまな機能を集約し、コンパクトに暮らせる「まちの核」を段階的につくります。
- どのように跡地を活用し、どのような「まちの核」をつくるかは、これから地域・行政・学校などで議論を行い、事業者の意見も参考にしながら決めていきます。

これからのまちを支えるために必要な機能

「交流機能」

活動・相談・見守り・支えあいなど
多世代が気軽に集える地域の居場所

<意見>

- ・誰でも来られる地域の集い場が必要
- ・自然な交流や見守りが続く場に
- ・みんなが来やすい場所で使いやすく
- ・拠点をつくり地域内外の交流を活性化

「市営住宅」

安心・安全に住める、
多世代が共生する市営住宅

<意見>

- ・市営住宅の改修・建替えを早期に
- ・空き住戸を活用して若者を呼び込んで
は（ＤＩＹ住宅、アトリエなど）
- ・高齢者等が孤立することなく安心できる住まいが必要
- ・若者や子育て世帯が住める環境づくり

「民間住宅」

公共施設再編の跡地を使った
若者・子育て世帯が住める民間住宅

<意見>

- ・地域出身の若い世帯や新たな世帯が住める住まい（戸建・賃貸住宅）が必要
- ・公共施設を集約した跡地は、多様な世帯が住める住宅地とし、若者を増やす

「学校」

地域・保護者も一丸となった
特色・魅力のある学校

<意見>

- ・子どもたちを通わせたいと思う学校へ
- ・地域環境を活かした教育を行う学校へ
- ・地域が関わり多世代交流が盛んな学校へ
- ・一丸となって課題を解消する学校へ

「読書・学習&子育て機能」

子どもと大人の信頼関係を築く、
子育て・子育て活動を支える場

<意見>

- ・地域全体で子育て・教育をサポート
- ・子どもたちのよりどころとなる場を
- ・子育て中の家庭が相談・話し合える場に
- ・子育て世帯を引きつける特徴的な子育て・教育の活動も必要

「地域福祉・医療機能」

高齢者等が孤立することなく
安心して暮らし続けられる施設・場

<意見>

- ・高齢者等の孤立・引きこもりへの対応
- ・医療・福祉と高齢者の住まいは近くに
- ・診療所は地域外からも訪れやすく
- ・地域の福祉活動・人材は共有・交流を

「防災機能」

自然災害等の際に安心・安全に
避難できる経路・施設

<意見>

- ・学校再編後も、避難経路と避難所をしっかりと確保することが必要
- ・災害対応に地域差が出ないよう拠点施設に防災機能を集約して対応をすべき
- ・空き家・集会所等を使って防災空間・設備の確保を

「魅力創出機能」

訪れたいと思わせる、**地場産業・歴史資源**を活かした魅力づくりの取り組み

<意見>

- ・地域魅力（ガラス・アクセサリ、歴史・伝承・商店）を集めたブランドづくり
- ・地域魅力・情報を発信する機会が必要
- ・団地空間を活かしたにぎわいづくりを（空き家、空き店舗、壁など）
- ・池上曽根史跡公園をもっと活用（イベント時の出店、音楽ライブなど）
- ・信太山盆踊りやだんじりに関連する取り組みを増やす（三味線貸出、浴衣着替スペースなど）

「買い物・飲食&駐車機能」

まちでの**暮らしや移動を**
便利で魅力的にする施設

<意見>

- ・地域でもっと食事できる場所が必要（商店、屋台・朝市など）
- ・空き店舗を開業希望者に貸しては
- ・買い物するための駐車場が必要
- ・ベビーカーでも来やすいお店を

「働く場」

身近な所で**働いたり**活躍できる、
生きがいを持てる場

<意見>

- ・定住人口を増やすためには雇用が必要
- ・育成する人材を招いて、短時間でも地域で働ける場・機会を
- ・やる気ある人が施設運営や地域活動に身近に関われるように
- ・目玉となる施設ができれば、商店も活性化し、新たな雇用も生まれる

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

シカケ 2

「まちの核」を中心にした 【コアプロジェクト】をつくる

- 「コアプロジェクト」は、めざすまちの未来の実現のために実践する**施設整備（ハード）と活動（ソフト）両面からなる取組み**です。
- この構想では、議論を通じて実施する方向性や役割が見えてきた、次の**6つのコアプロジェクト**を位置付け、地域の機運を高めながら、今後実現に向けた具体的な検討を行っていきます。
- コアプロジェクトは、これで全てではありません。構想策定後も引き続き議論していくなかで、新たなプロジェクトが位置付けられることを想定しています。

プロジェクト 1 多世代交流拠点づくりプロジェクト

市営住宅の建替えや施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の導入とあわせて、富秋中学校区の「まちの核」となる**多世代と多様な人々が交流する機能を備えた複合拠点**をつくります

プロジェクト 2 学校・教育魅力づくりプロジェクト

現・富秋中学校の位置に**施設一体型義務教育学校（小中一貫校）**を導入し、魅力ある教育を実践する拠点と、子どもたちの最善の教育環境をつくることをめざします※

注）施設一体型義務教育学校（小中一貫校）は、行政において地域への個別説明や、アンケートを実施し、地域の機運の高まりが確認できた段階で、適正就学対策審議会などの手続きを進めることとなります

プロジェクト 3 団地で子育てプロジェクト

市営住宅の**空き住戸、空きスペース**を活用して、**若者・子育て世帯の呼び込み**を実施します

プロジェクト 4 居場所づくりプロジェクト

子ども・大人・親子・高齢者など**「誰でも」来られる居場所づくり**を実施します

プロジェクト 5 安心・安全暮らしプロジェクト

高齢者や障がい者が**安心・安全に暮らせるよう、福祉・防災の取組みを充実**していきます

プロジェクト 6 にぎわいづくりプロジェクト

地場産業や歴史資源、地元商業者の活力を活かし、**地域のにぎわいを活性化**する取組みを実施します

シカケ 3

安心・安全・快適な通り・空間で、 「まちの核」やまちの資源をつなぐ

- 拠点となる「まちの核」や歴史・伝統あるまちの資源の周辺は、**歩いて安心・安全、快適に感じられる通り・空間**となるよう、安心・安全に学校へ通える通学路や快適な歩行者道路の整備、沿道空間の利用、緑の手入れなどを行っていき、まちとしての魅力を高めます。



安心・安全に通える通学路
(イメージ写真)

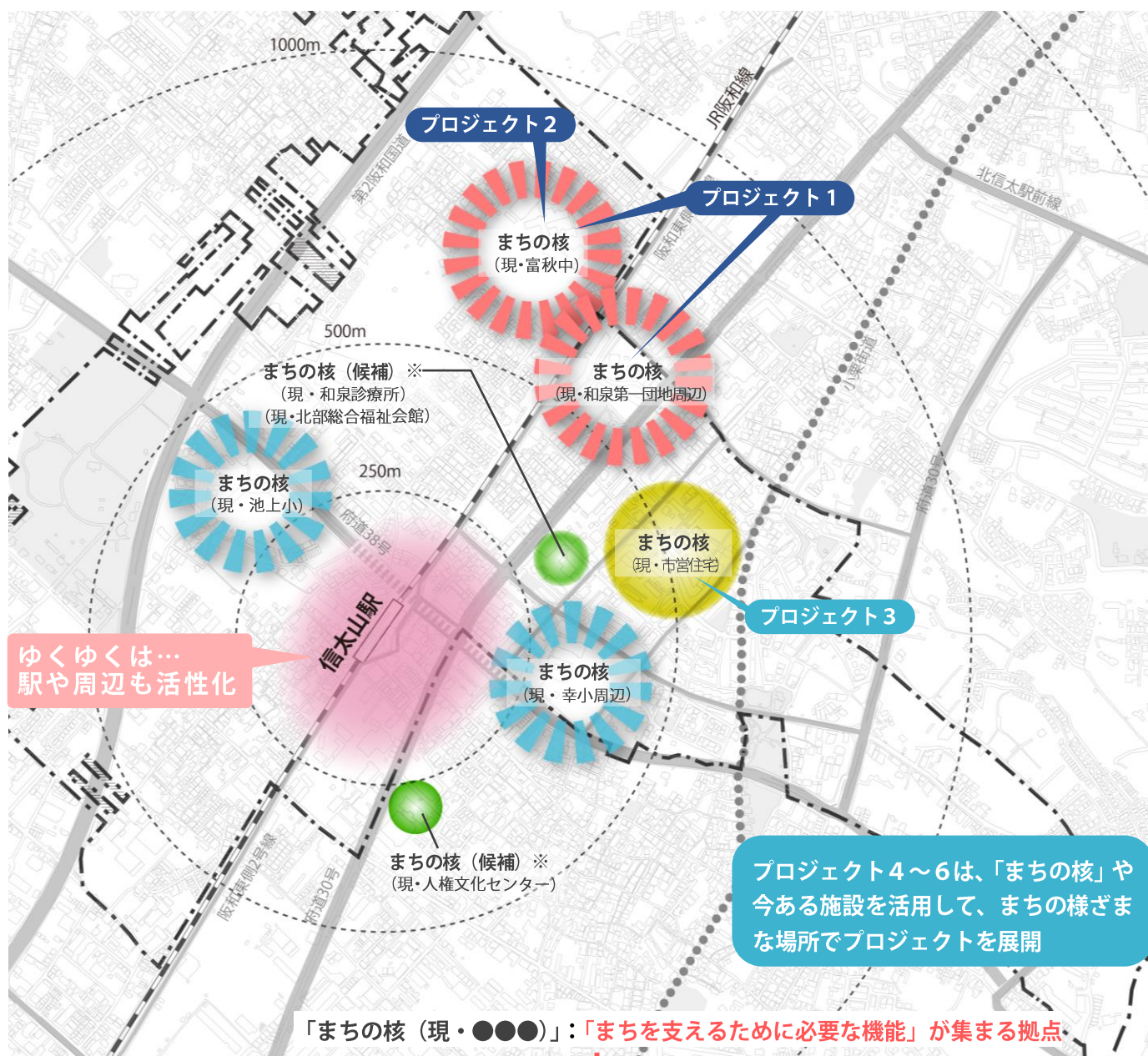


うるおいのある散歩道
(イメージ写真)



まちのみんなが集うメインストリート
(イメージ写真)

<まちを動かす・変えていくシカケによるまち再編イメージ>



※公共施設の再編により将来的にまちな核となる可能性を持つ候補

現在の市営住宅や学校をはじめとする**公共施設を再編し、**
跡地にまちに必要な機能 (まちな核) を整備

地域と行政が対話しながら跡地活用を進め、住宅地やお店、公園、福祉施設等を整備。若者・子育て世帯が新たに住めるまちへ

プロジェクト1 多世代交流拠点づくりプロジェクト

市営住宅の建替えや施設一体型義務教育学校（小中一貫校）の導入とあわせて、
多世代と多様な人々が交流する機能を備えた複合拠点を つくる

地域の中心に安心・安全な住まいとみんなの拠点を

プロジェクト2 学校・教育魅力づくりプロジェクト

現・富秋中学校の位置に施設一体型義務教育学校（小中一貫校）を導入し、魅力あ
る教育を実践する拠点と、子どもたちの最善の教育環境をつくることをめざす

通わせたいと思える学校、地域と共にある学校へ

プロジェクト3 団地で子育てプロジェクト

市営住宅の空き住戸、空きスペースを活用して、
若者・子育て世帯の呼び込みを実施する

若者・子育て世帯を呼び込むきっかけづくり

プロジェクト4 居場所づくりプロジェクト

子ども・大人・親子・高齢者など「誰でも」来られる居場所づくりを実施する

プロジェクト5 安心・安全暮らしプロジェクト

高齢者や障がい者が安心・安全に暮らせるよう、福祉・防災の取組みを充実していく

みんなで支えあうしかけづくり

プロジェクト6 にぎわいづくりプロジェクト

地場産業や歴史資源、地元商業者の活力を活かし、
地域のにぎわいを活性化する取組みを実施する

伝統を大切に！訪れたいくなるまちへ！

5

「まちの核」をつくり・つなげる

6つの【コアプロジェクト】

プロジェクト 1

中期

多世代交流拠点づくりプロジェクト

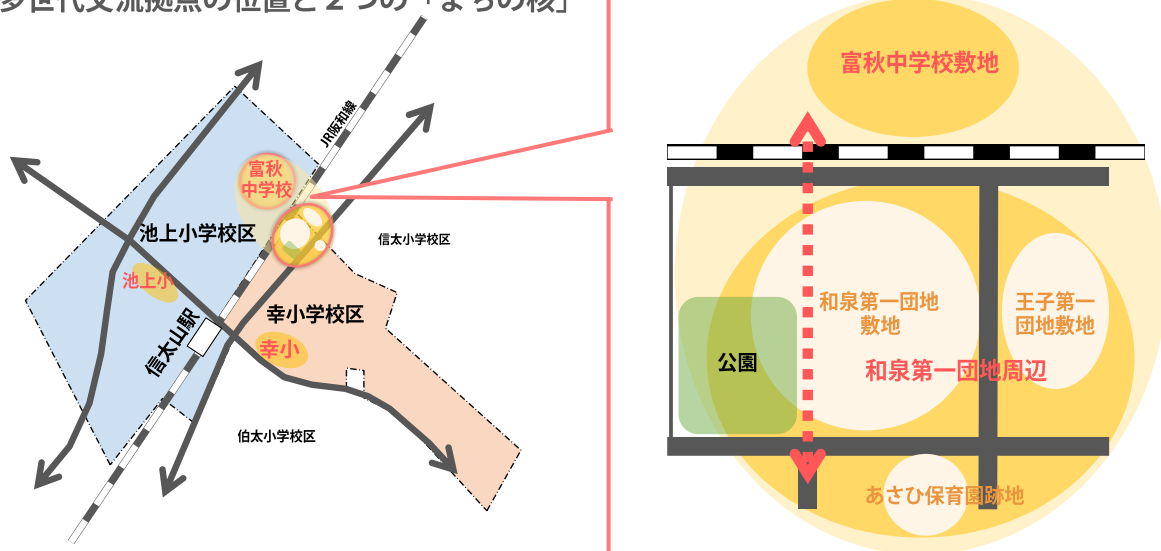
<取組み方針>

- ①地域の中心に、誰もが集まりやすく、地域活動や相談・見守り・支えあいなどを行える、**みんなの居場所**となる、**多世代と多様な人々が交流する拠点**をつくる
- ②和泉第一団地を、耐震性に課題がある他団地とともに**集約建替え**し、**安心・安全でコンパクトに暮らせる住まい**をつくり、**住まい×交流の複合拠点**とする
- ③**地域みんなで**、多世代交流の活動内容や、使っていくルールを考え、**みんなで拠点**をつくり育てていく

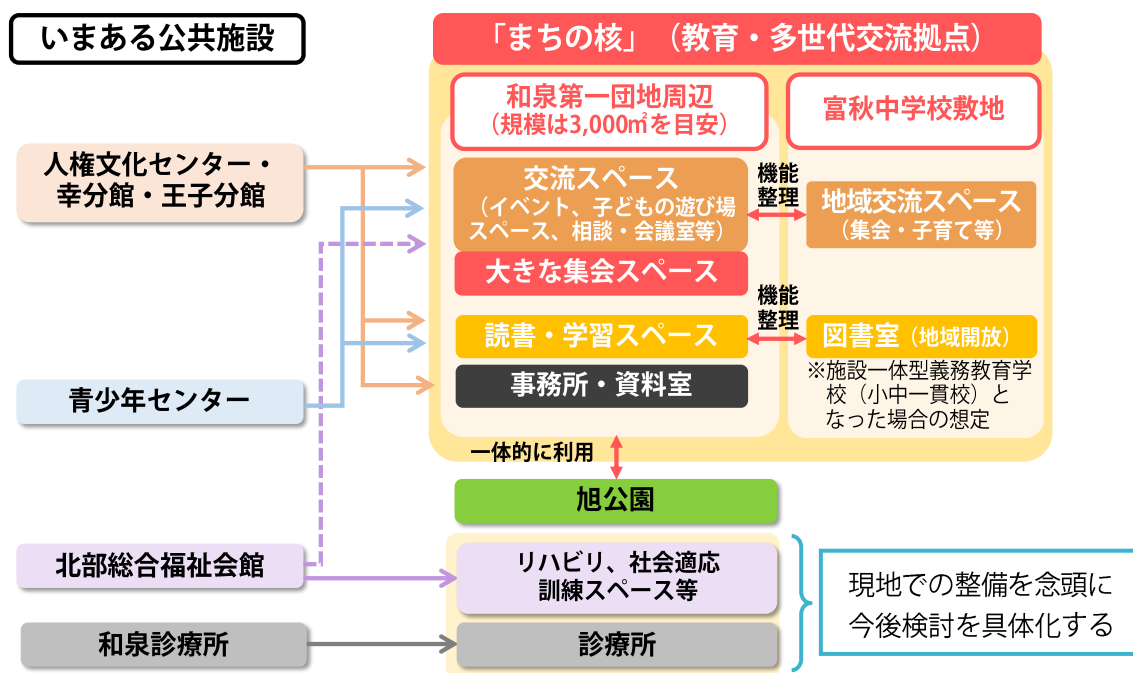
<多世代交流拠点づくりの考え方>

- 2つの小学校区にまたがる“和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”を大きな「**まちの核**」とし、公共施設を再編して多世代交流拠点をつくる
- “和泉第一団地周辺”と“富秋中学校敷地”は機能連携し、必要機能は分担する
- 和泉第一団地周辺の「まちの核」は、**建替用地**（和泉第一・王子第一）+ **更地**（あさひ保育園跡地）も活用する
- すぐに活用できるあさひ保育園跡地には、先行して子育て機能を誘致する
- このほかの拠点に導入する機能や規模は、地域で話し合った「まちに必要な機能」イメージを基に、地域と行政が対話を進めながら検討する

■多世代交流拠点の位置と2つの「まちの核」



■部会・検討会議で議論した「まちの核」の機能イメージといまある公共施設との関係



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・新たな住まいづくり・コミュニティづくりの方針を検討する
- ・施設内容やイメージ、条件等を行政と協議して検討する
- ・施設の使い方や運営する体制などを検討し、施設運営にも関わっていく

●行政

- ・安心・安全で多様な市営住宅と魅力的な多世代交流拠点が整備される事業手法を検討し、和泉第一団地での市営住宅の集約建替と、みんなの居場所となる多世代交流拠点を整備・運営する

●事業者

- ・安心・安全で多様な市営住宅と魅力的な多世代交流拠点を行政に提案し、行政とともに整備する

◎意見(主なもの)

- ・拠点はどこにあるかがわかりやすく、誰もが集まりやすく、使いやすく
- ・やる気のある人が、活動を興せる“受け皿”となり、“やりがい”を持てる場に
- ・人権文化センターなど、いまある施設の機能、取組み・活動をよく精査し、新たな施設に反映すべき
- ・子どもが入ってきやすくなる工夫が重要
- ・青少年センターに代わる、子どもが自由に遊ぶことができる場所が必要



ボランティアスタッフ40人が集まった居場所づくりイベント

大切にしたいこと①【地域の力で…】

この地域には、子育て世帯や子どもたちの居場所である「にじのとしょかん」や「青少年センター」、また地域の生活に欠かせない施設である「和泉診療所」や「北部総合福祉会館」など大切にしてきた場所がある。

今後もこのまちで大切にしてきたことを持続していくためには、地域住民が主体となって、地域に必要な場を、行政と連携しながらもにつくっていく。

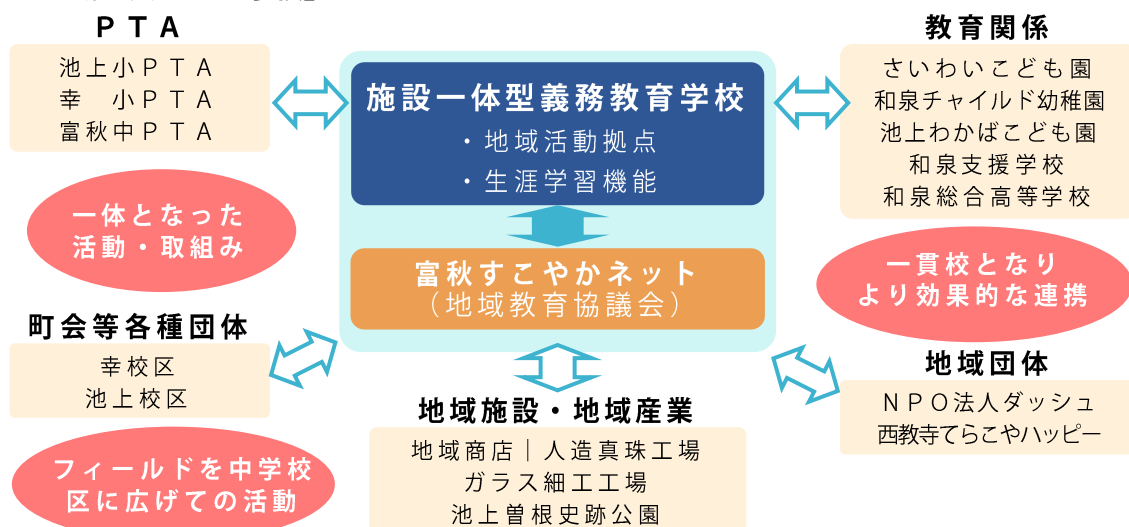
※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

学校・教育魅力づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ① 現・富秋中学校の位置に**施設一体型義務教育学校**（以下「**小中一貫校**」）を導入し、**魅力ある学校・教育づくり**を、**地域・保護者・学校・行政**が一丸で取組む
- ② **小中一貫校への不安・懸念事項**は、「**開校前**」から**解消**に向けた取組みを行う
- ③ 「**地域と共にある学校**」をめざし、**学校を多用途に活用できるスペース**（集会・活動、図書室など）を設け**地域拠点**とする等、**地域と学校の日常的な関わりあい**を一層深める

■「地域と共にある学校」のイメージ



<特色・魅力ある学校・教育づくりの考え方>

- 施設一体型の特性を活かした教育を実施する
- 地域特性を活かした教育内容を充実させる
- 学校施設を多用途に活用し地域に開く（集会・活動スペース、図書室など）
- 具体的な内容等は、上記方針をもとに今後、協議の場を設け検討する



中学校教員による
小学生への専科指導



地場産業を生かした
キャリア教育



図書室の地域開放、地域
人材による読み聞かせ



放課後子ども教室など
の開催

＜小中一貫校への不安・懸念事項への対応の考え方＞

- 小中一貫校に対する理解を深めるような取り組みを行い、地域の機運を高めていく
- 小中一貫校への不安・懸念事項は、「開校前」から、地域・保護者・学校・行政で解消するための検討を行い、取り組みを実施する

主な不安・心配

対応の考え方

小学生と中学生がともに
過ごすことへの不安

○小中一貫の教育活動を通じた交流を充実
○小中学校教員による系統立てた指導・見守り

通学距離・通学時の
安全確保

○安全な通学路の整備
○小中のたてわり活動を活用した登下校活動

教員の負担増や子どもを
育む体制の弱体化

○教員をサポートする方法を検討
○地域との連携強化
(居場所づくり、コミュニティスクール等)

- 具体的な内容等は、上記の考え方をもとに今後、協議の場を設け検討する

＜役割分担のイメージ＞

●地域・保護者

- ・主体的な学校運営への参画
- ・地域の子どもの地域で育てる取り組みの充実

●学校

- ・9年間を見通した教育課程づくり
- ・地域の特色を活かし、地域と連携した教育の実践

●行政

- ・魅力ある教育を実践するための学校教育環境の整備
- ・地域と学校の協働による教育活動への支援

◎意見（主なもの）

- ・和泉市のモデルとなる、通わせたいと思われる学校づくりを行いたい
- ・多世代交流が盛んな学校としたい。学習環境をよりよくすべき
- ・低学年の通学距離が延びる、大きな道路や線路を越えることが心配
- ・上級生の悪い影響を受けること、最高学年の自覚の低減が心配
- ・就学区域の設定についても考える必要がある
- ・教育の専門家の意見も聞いて学校づくりを行うべき



読書サークルや中高生が参加の
いずみブックフェスティバル

大切にしたいこと②【地域一丸で子育て・子育てを支援】

現在の富秋中学校がつくられた際、子どもを通わせたい、夢のある学校として、他の校区の「モデル」となるような学校づくりがめざされていた。また、学校だけでなく、子どもの教育問題について地域全体で考えていく気風のなかで開校した。

次代に引き継ぐ新しい学校も、独自の特色・魅力づくりを行い、地域と連携したまち全体で子どもの教育環境を作り上げていく。

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

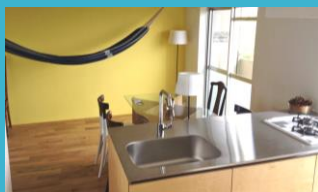
団地で子育てプロジェクト

<取組み方針>

- ①若者・子育て世帯を呼込むための**空き家改修、ルールの変更**を行う
- ②**空きスペースを活用**してみんなが**交流できる拠点**をつくり、地域が中心となって**子育てサポートや多世代交流の取組み**を実践し、拠点を運営する

■プロジェクトイメージ

①市営住宅空き家改修（若者入居）



②空きスペース活用（居場所づくり）



③地域活動（子育てサポート・多世代交流）



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・空き住戸・スペース活用方法を行政と協議・検討する
- ・運営組織をつくり、交流空間の利用ルールづくり、子どもや子育て世帯、福祉の相談の場、多世代交流事業・活動（例：子育てママの交流プログラム、食育活動、学習支援、遊び場づくり、朝市等のイベント、お店運営など）を実施する など

●行政

- ・①空き住戸の改修、ルール変更（DIY可能、集会所利用等）、②交流空間（デッキ・仮施設等）の整備により、みんなが気軽に立ち寄れる空間を整備する、③多様な人々が住める住環境づくり（例：入居基準の検討） など

◎意見（主なもの）

- ・団地を活用して、若者・子育て世帯の住み続け、新たな呼び込み、気軽に立ち寄れる場づくり を行うべき
- ・稼働率の低い集会所を親子連れで使える場所にするとところからはじめては
- ・子育てに関する相談や情報交換できる環境があるとよい

居場所づくりプロジェクト

<取組み方針>

- ①子どもと大人、親同士が信頼関係を築けるよう、誰でも参加可能な「**居場所づくりイベント**」を継続的に実施する
- ②イベント等を通じて、子育て・子育て活動などを支援する**仲間・ネットワークづくり**、高齢者などの**生きがいの場づくり**を行う
- ③子どもが**自由に遊ぶことができる広場・公園**をつくり、プレーパークなどの子どもが集まるしかけづくりを行う

■まちづくり構想づくりをきっかけにスタートした第1回居場所づくりイベント

日時：平成31年 1月27日（日）

場所：青少年センター

内容：①プレーパーク&棒パンづくり&鬼ごっこ

②読み聞かせ会&読み聞かせ講座

③節分仮装づくり&記念撮影

④無料カフェスペース(セルフ)

結果：参加者101名（大人53/子ども48）

+スタッフ約40名



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・まちのさまざまな場所での「居場所づくりイベント」を継続開催する
- ・イベント等を通じた子育て・子育てなどの活動を支援する仲間・ネットワークづくり
- ・空きスペースなどを活用した拠点づくり+活動組織づくりを検討する
- ・拠点を活用した居場所づくり活動を実施する など

●行政

- ・団地空間などでの居場所となる拠点を整備する
- ・地域のイベント・活動時における公共用地・施設の利用協力 など

◎意見（主なもの）

- ・参加者の声も聞き、このまちに合う活動をつくっていききたい
- ・まずは顔の見える関係の「きっかけ」ができれば
- ・周辺地域からも「いいね」と思ってもらえるよう情報発信も

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

安心・安全暮らしプロジェクト

<取組み方針>

- ①地域にあるさまざまな**福祉活動・防災活動の情報と活動する人材を連携させるネットワーク**をつくり、**活動の連携や人的交流・育成**を行う
- ②地域でさまざまな福祉活動・防災活動が行われていることを知ることができるよう、地域の**福祉活動・防災活動に関する情報を集約してまとめて発信**する
- ③子どもや若者・子育て世帯などが、**普段から助けあい・支えあいの輪に参加**できるよう、**高齢者や障がい者と日常的に接する機会**を増やすしかけづくりを行う
- ④**市営住宅を活用**し、**高齢者や障がい者が安心・安全に暮らせる住まい・拠点**をつくる

■「協議の場」*において今後の福祉活動の優先順位として挙げられた取組み

<池上校区>		<幸校区>	
1	協議の場		協議の場
2	カフェサロン（地域交流の場）		防災対策
3	見守り事業（配食・訪問）		見守り事業（配食・訪問）
4	防災対策		ふれあいモーニング（地域交流の場）
5	いきいきサロン（体操・清掃活動等）		社協・ボランティア活動のPR
6	空き家対策		敬老イベント（地域交流の場）
7	小学生福祉講座（車いす疑似体験等）		認知症サポーター養成講座
8	エプロン・Tシャツ作成（支援者に配布）		カラオケ介護の支援
9	認知症サポーター養成講座		いきいきサロン（地域交流の場）

*地域の福祉活動のありかたを議論する場。和泉市内の各小学校区ごとに「協議の場」が設置されている。

<役割分担のイメージ>

●地域

- ・各団体の福祉活動・防災活動の情報と人材のネットワークづくり、連携活動・人材交流・情報発信
- ・多世代交流事業・活動を実施する など

●行政

- ・高齢者・障がい者が安心して暮らせる住まい・拠点の整備
- ・防災対策の充実、避難拠点の整備 など

◎意見（主なもの）

- ・活動を知らない人、参加しにくい人へ活動情報を伝えることが必要
- ・福祉活動を活発にするには人づくり
- ・関心ある人向けに合同セミナーを開催
- ・コミュニティごとに拠点をつくる
- ・民間の支援施設のサポートも必要

大切にしたいこと③【地域住民の福祉】

池上・幸の両校区では、協議の場や、老人クラブ、すこやかリビングなど、地域住民が互いに支えあう精神が脈々と受け継がれてきている。

その想いを引き継ぎながら、支えあいが自然に生まれる多世代交流の場づくり、誰でも参加できる居場所づくり、互いの活動の情報を相互交換できる体制づくりを進めていく。



池上わかばこども園児との
いきいきサロン交流会

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

にぎわいづくりプロジェクト

<取組み方針>

- ① **地元商業者等が連携**し、来街する外国人宿泊客の購買・文化体験機会をつくる
- ② 地場産業のガラス細工・人工真珠、池上曽根史跡公園などの歴史資源を活用した **観光魅力創出プロジェクト**を実施し、**地域ブランド**をつくる
- ③ 地域の歴史を学ぶ場づくりや、**伝統を次世代に継ぐ者を育成**する取組みを行う
- ④ 住民主体で**地域の魅力・情報を発信する仕組み**をつくる

■商店主等との連携による購買・文化体験機会づくりのプロジェクトイメージ

- ・外国人観光客への「日本人の日常体験」（アクティビティ）の提供と「地域の活性化」のため、“ホテル”と“商店街”が提携
- ・地域全体を“大きなホテル”に見立て、宿泊客は日本人が日常利用する**飲食店**での**飲食**や**文化体験**を楽しむ



<役割分担のイメージ>

●地域

- ・（仮称）地域丸ごとホテルプロジェクトの検討・実践
- ・地場産業（ガラス細工・人工真珠）や歴史資源を活かしたブランド化づくりの検討・実践
- ・信太山盆踊りやだんじり祭などの伝承文化の保存・継承・活性化
- ・そのほかの地域課題の協議・検討（駐車場など） など

●行政

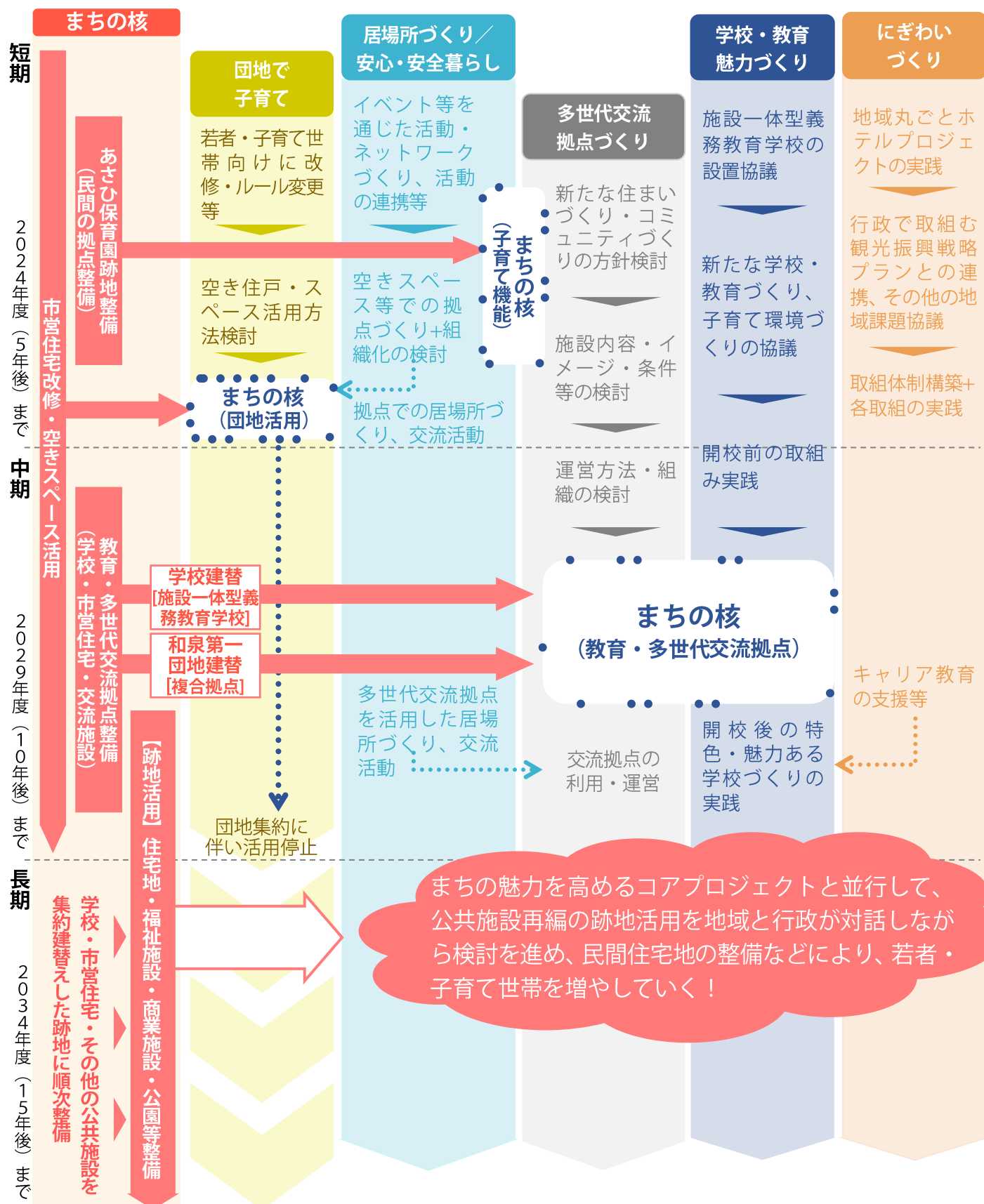
- ・和泉市観光振興戦略プランに基づくガラス細工・人工真珠を活かしたブランド化づくりの支援
- ・地域課題解決にむけた各種支援 など

◎意見（主なもの）

- ・個人商店同士が協力して新たな観光資源をつくれるとよい
- ・地場産業は、観光向けの体験の場、地域教育としての販売体験づくり両面で活かすべき
- ・スポーツ施設など新たな観光資源になるものをつくる視点も必要。新たな雇用にもつながる
- ・団地内店舗の業種替えを可能とするルールづくり等、新たに商売できる環境をつくるべき

※「意見」は検討会議、専門部会、ワークショップで挙げられた主な意見です。

【「まちの核」と【コアプロジェクト】によるまちづくりの流れ】



※時期はたたき台であり、構想策定後に地域での話し合いや、地域と行政での対話を行い、時期を定めていきます

※ここに挙げた【コアプロジェクト】は、現時点で想定されるものであり、これで全てではありません。構想策定後も引き続き議論していくなかで、新たなプロジェクトの立ち上げを想定しています

段階1



5つのプロジェクトを先行して進めます。とくに、多世代交流拠点プロジェクトでは先行してあさひ保育園跡地に**子育て機能を誘致**し、**団地で子育てプロジェクト**では団地を活用した**小さな拠点をつくり誰でも来られる居場所づくりを進めます。**

並行して**学校・教育魅力づくりプロジェクト**、**多世代交流拠点づくりプロジェクト**（複合拠点）の準備を進めます。

段階2



和泉第一団地の集約建替、施設一体型義務教育学校の設置とあわせて、多世代交流拠点づくりプロジェクト、**学校・教育魅力づくりプロジェクトを進め、「まちの顔」となる交流拠点を整備**します。

この施設の運営に地域が参画することで**活躍の場**の創出、**子育て・子育てを支援する環境を整えます。**

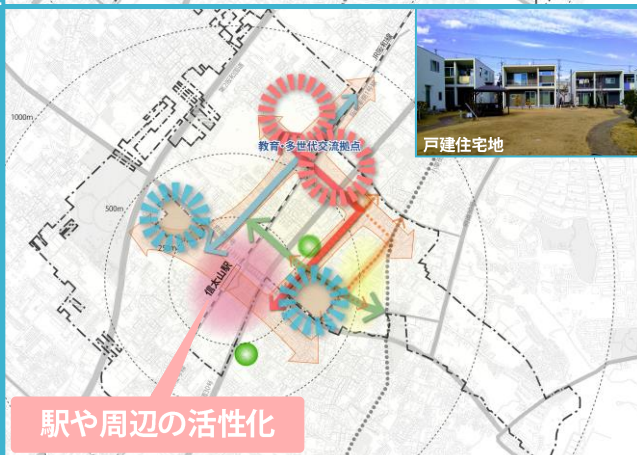
段階3



市営住宅や学校をはじめとした公共施設の再編跡地は、地域と行政の対話により活用検討を行い、**民間住宅地、福祉施設、商業施設、公園、防災施設など、まちに必要な機能を整備**。まちの魅力を高めます。

歩いて安心・安全な通学路、快適になる通りを整備し、コンパクトで歩いて暮らしやすいまちとしていきます。

段階4



複数の「まちの核」とコアプロジェクトによりまちがにぎわうことで、さらなる**定住化、駅および駅周辺の開発・活性化**が期待できるようになります。

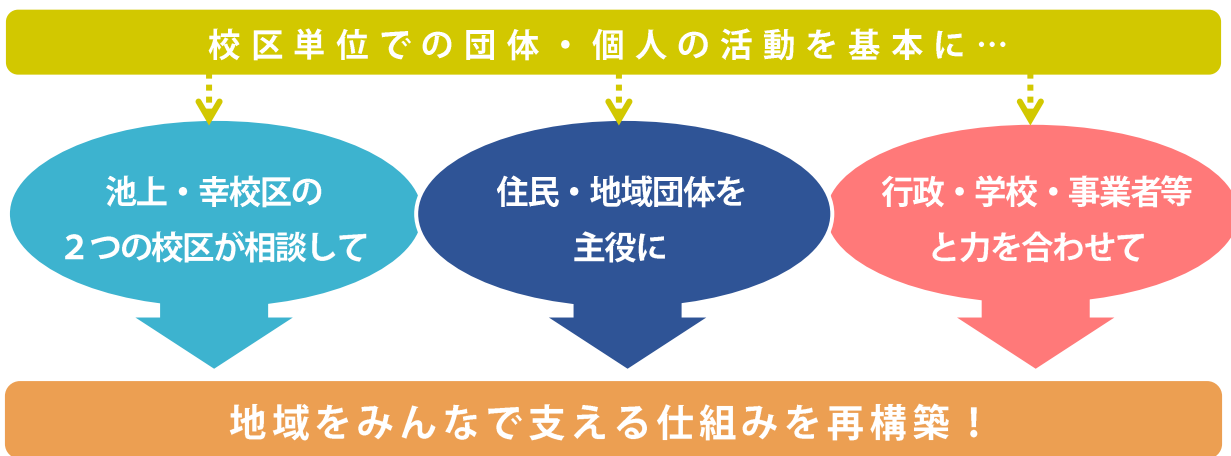
それをきっかけに**周辺地域を巻き込んだまちづくり**に発展させることで**住みたいと思われるまちへと変化**していきます。

実現と発展に向けた持続可能な体制

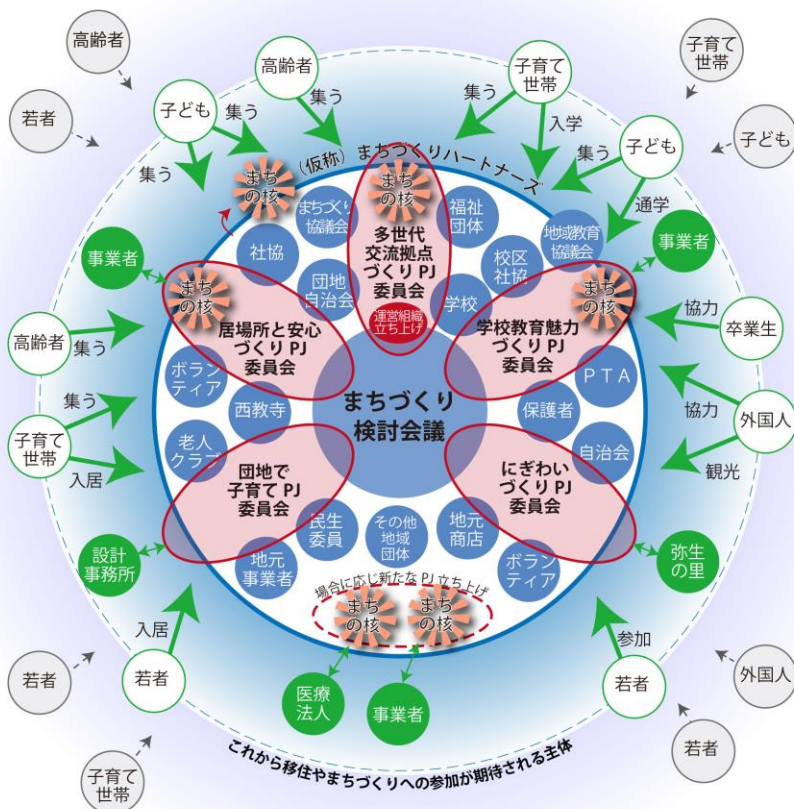
富秋中学校校区等のまちづくりは、自治会・町会、校区社協、民生委員・児童委員、PTA、ボランティアグループ等、**校区単位の団体・個人活動**により支えられています。

まちづくり構想を実現するため、引き続き**これらの活動を基本**としつつ、さらに、①池上・幸校区の2つの校区が相談して、②**住民・地域団体を**主役に、③**行政・学校・事業者等と力を合わせる**ことで、地域をみんなで支える仕組みを再構築していきます。

■構想実現に向けた基本的な考え方



■体制のイメージ



そのために行う5つの体制づくり

1

構想実現に向けてまちづくりを考え抜くため、まちの代表者が集う「富秋中学校区等まちづくり検討会議」を推進母体とします

- 検討会議では、構想の管理、プロジェクト実施の調整・決定、行政との対話、まちづくり情報の発信等を行います

2

まちづくりのネットワークを「見える化」するため、まちづくりに関わる方を「(仮称) まちづくりパートナーズ」として登録します

- パートナーズは、まちづくりに関わる団体・個人であれば誰でも登録可能なものとします

3

みんなでプロジェクトを検討・実践するため、関係者（住民・事業者など）誰でも参加できる「プロジェクト委員会」をつくります

- 委員会メンバーは構想を実現する実行メンバーです。参加者は全員が事業の実施や支援に関わることを想定しています

4

質の高い「まちの核」づくりを進めるため、行政や様々な事業者との連携をはかります

- 事業者の意向も把握しつつ、公募形式や官民連携プロジェクトなどより良い方法で整備等を進めます

5

将来つくる拠点を地域自らが主体性をもって運営するため、運営組織を新たに立ち上げます

- 運営組織を新たに立ち上げ、運営することも視野に入れて体制整備を進める